

特定非営利活動法人

建築設備コミッショニング協会

(Building Services Commissioning Association)

第 1 5 期通常総会資料

【1】法人の概要

【2】議事資料

第 1 号議案「第 15 期事業報告及び収支決算に関する事項」

第 2 号議案「第 16 期事業計画(案)及び予算(案)に関する事項」

【3】報告事項

日 時：2019 年 5 月 27 日（月）13:30～

場 所：中央大学駿河台記念館 285 号室



特定非営利活動法人
建築設備コミッショニング協会

【1】法人の概要

名称：特定非営利活動法人 建築設備コミッショニング協会
(Building Services Commissioning Association, BSCA)

設立日(設立総会)	: 2004年3月19日
法人成立(内閣府)	: 2004年8月9日
法人登記完了	: 2004年8月25日
名古屋事務所登記	: 2004年9月1日
事務所登記変更	
従たる事務所設置	
東京	: 2007年6月26日
京都	: 2007年6月26日
主たる事務所移転	: 2007年6月28日
従たる事務所移転	
兵庫	: 2010年5月19日
主たる事務所移転	: 2013年5月15日
主たる事務所廃止	: 2013年5月15日
主たる事務所移転	: 2015年7月7日

役員

理事長 吉田治典
副理事長 赤司泰義、柳原隆司、山羽 基
理 事 伊藤英明、大石晶彦、岡本利之、上谷勝洋、澤地孝男、田井公浩、高瀬知章、松下直幹
監 事 高草 智、高橋直樹

会員数 (2019年3月31日現在)

個人正会員 222名
賛助会員 41団体 (内 大学 6校)、特別会員 6名

委員会組織

- ・企画・運営委員会：協会運営、普及啓発戦略立案、講演会・シンポジウムの企画、広報活動、会員増強等
- ・認証検討委員会及び資格判定委員会：認証制度検討、資格制度検討、資格研修会・講習会運営、資格認定、資格登録
- ・事業委員会：研究調査、先導的コミッショニング事業受託、Cx費用ガイドライン検討
- ・技術委員会：技術支援、コミッショニングプロセス・ツール研究

賛助会員一覧 (2019年3月31日現在)

財団法人

建築技術教育普及センター、ヒートポンプ・蓄熱センター

企業

アズビル、アレフネット、エネゲート、エム・ティー・ディー、大阪ガス、大林組、関西電力、
関電エネルギーソリューション、九電工、きんでん、三機工業、三建設備工業、三晃空調、
JR 東日本ビルテック、新日本空調、新菱冷熱工業、ソーワエンジニアリング、
ダイキン工業、大成建設、ダイダン、高砂熱学工業、中部電力、東京ガス、
東京電力エナジーパートナー、東京都市サービス、東邦ガス、日建設計総合研究所、日本設計、
日本ファシリティ・ソリューション、三菱地所設計、三菱重工サーマルシステムズ、
森村設計*(五十音順)

大学

京都大学、東京大学、名古屋大学、中部大学、立命館大学、神戸大学(入会順)

官公庁

神奈川県立近代美術館

* : 新規会員を示す。

【2】議事資料

第1号議案「第15期事業報告及び収支決算に関する事項」

事業報告(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

1. 事業の成果

人材育成事業として、毎年開催している性能検証技術者(CxPE)の資格研修会を昨年12月に大阪で開催した。8名の受講者がありそのうち7名が修了試験に合格した。これで、現在、CxPEの総計は99名となった。性能検証専門技術者(CxTE)の講習は、昨年11月に福岡と札幌で開催し、会員外の受講者も含めて合計42名(福岡26名、札幌16名)が受講した。その結果、CxTEの技術者登録制度には、現在66名が登録している。コミッショニングを業務として実施する組織(CxF: Commissioning Firm)の登録制度の登録は現在8社で昨年と同数である。人材育成のためのシンポジウムとして本年2月に関西と東京で「Cxシンポジウム・米国におけるコミッショニング事情の調査報告」を、研究会として昨年8月に名古屋で「コミッショニング研究会 in 中部」を開催した。建築設備コミッショニングマニュアルの販売は順調に推移し昨年度13部を販売した。

性能検証普及事業として、会員への情報伝達に関しては例年通りニュースレターを月1回発行した。また今後は、ホームページを活用したWeb上のレターに移行するため、ホームページの仕組みの改変作業を行い、本年4月開設のための試行をした。昨年9月には、例年通り空気調和・衛生工学会大会(大同大学)の展示ブースへの出展を行い、当協会会員や関連学協会会員・一般市民を対象としたコミッショニングプロセスおよびコミッショニング技術の普及広報活動を実施した。

調査研究及び技術支援事業として、ビジネス展開と技術開発・研究の両面から米国のコミッショニング実情を調査するツアーを企画し、個人会員・賛助会員に向けて参加を募ったところ15名の参加が得られた。調査は、全米コミッショニング協会の大会(ナッシュビル)への参加とそこでの京都駅プロジェクトに関する発表のほか、NIST 米国建築研究所(ワシントンD.C.)、コミッショニング事業に特化した事業を行っているBaumann事務所(シカゴ)、Turner事務所(ボストン)を訪問し様々な意見交換を行った。この成果は、関西と東京で開催した「Cxシンポジウム・米国におけるコミッショニング事情の調査報告」で公表し、それを広く広報するため建築設備総合協会誌への掲載なども企画した。コミッショニング技術とその展開・整備について、例年通り、空気調和・衛生工学会のコミッショニング委員会と連携した。コミッショニングの研究および実務を担う次世代の若手研究者・実務者を養成するため、昨年9月に長野で「次世代のコミッショニングを担う若手研究者・実務者による交流会」を開催した。

基準制定・検証事業として、一昨年12月に立ち上げたCx費用ガイドライン検討WGによるコミッショニング事業フィーのガイドライン作成作業をほぼ終了し、2019年6月に原案をホームページ上で公表して会員からのコメントを収集し、それをもとに最終案を作成して9月に公表する計画である。コミッショニング事業の社会への広がりを進めるために、当協会が先導プロジェクトとして受託した事業については、1)京都駅ビルの熱源・空調システム改修工事の適正化フェーズIを終え報告書を提出した。2)引き続き適正化フェーズIIを最終段階として受託し遂行中である。なお、本事業の成果において、2018年度の省エネルギーセンター「省エネ大賞経済産業大臣賞」、空気調和・衛生工学会「第7回特別賞リニューアル賞」、建築設備技術者協会「第7回カーボンニュートラル賞」を受賞した。3)京都駅ビルについては、続いて2次側空調システム改修の基本設計フェーズ、ならびに、4)電気設備の改修に関わる調査・基本設計フェーズのコミッショニング業務を受託し作業が進行中である。5)東急電鉄から地下駅空調設備改修の調査・基本設計フェーズのコミッショニング業務を受託し継続実施中である。6)(仮称)TNK イノベーションセンター新築工事の基本・実施設計のコミッショニング業務は本年1月に作業終

え報告書を提出した。

共催・協賛事業として、日本建築学会第 14 回建築設備シンポジウムの後援（昨年 10 月、273 名参加）、空気調和・衛生工学会九州支部の新長崎県庁舎施設見学会（昨年 11 月、24 名参加）における共催、空気調和・衛生工学会近畿支部の京都駅ビル熱源・空調更新工事コミショニングプロジェクト見学会（昨年 11 月、59 名参加）の協賛をし、コミショニングの発展に寄与した。

その他、当協会の基盤拡充と社会活動充実のため賛助会員の増加に努めた。昨年度は、新規の個人会員が 23 名、賛助会員には新たに 1 社（森村設計）が加わった。事務局 WG では、引き続き事務局体制の整備をおこない事務処理を順次マニュアル化し事務作業の基盤整備と合理化を継続して進めた。

2. 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業（非営利活動）

事業名	事業内容	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	収支額（単位：円）		
						収入	支出	
(1) 人材育成事業	(1) セミナー開催等による性能検証に関する人材育成事業				会員、市民、建築関係者	2,425,880	2,461,156	
	シンポジウムや意見交換会・講演会を開催し、性能検証に関わる人材の育成と情報を提供するために下記を実施する。							
	a)	CxPE 資格研修	2018/12/14 ～12/15	堂島リバーフォーラム	10名	8名		
	b)	CxTE 講習（九州）	2018/11/1	TERASO-II ヒナタ福岡ヒナタホール	5名	26名		
		CxTE 講習（北海道）	2018/11/20	北海道大学学術交流会館 第4会議室	5名	16名		
	c)	認証検討委員会及び資格判定委員会活動	2018/4 ～2019/3	BSCA 事務所他	10名	—		
	d)	Cx 事例シンポジウム（東京・関西）	2019/2/6	大阪大学中之島センター佐治敬三メモリアルホール	12名	67名		
			2019/2/13	東京大学工学部1号館15号講義室	13名	95名		
	e)	Cx 研究会（中部）	2018/8/10	中部大学名古屋キャンパス 8C 講義室	2名	9名		
	f)	Cx マニュアル（CD）の頒布	2018/4 ～2019/3	BSCA 事務所	3名	4名 9団体		
	g)	総会付帯講演会	2018/5/28	中央大学駿河台記念館	10名	60名		
h)	技術交流会	2018/5/28	中央大学駿河台記念館	10名	60名			
i)	Cx に関心を持つ者の集い	2018/9/13	愛知県名古屋市	5名	42名			
(2) 性能検証普及事業	(2) 会誌・ホームページ等による性能検証普及事業				会員、市民、建築関係者、不特定	0	1,370,870	
	定期的に会誌やホームページによる広報を行い、最新情報を提供するため下記を実施する。							
	a)	ホームページの整備充実	2018/4 ～2019/3	事務局	4名	約1000名		
	b)	コミッションングレターの発行	2018/4 ～2019/3	事務局	30名	約170名		
	c)	空気調和・衛生工学会大会ブース出展	2018/9/13 ～9/15	大同大学	5名	約100名		
	d)	京都大学サステイナブルキャンパス構築シンポジウムポスター展示	2019/2/18	京都大学	1名	約200名		
	e)	「発注者の声」ホームページ掲載	2018/4/19	BSCA 事務所他	1名	約1000名		
	f)	企画・運営委員会活動	2018/4 ～2019/3	BSCA 事務所他	23名	—		

事業名	事業内容	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	収支額（単位：円）	
						収入	支出
(3) 調査研究・技術支援事業	(3) 性能検証に関する調査研究及び技術支援事業				会員、市民、建築関係者、不特定	65,000	1,769,844
	実施マニュアルやツール等の整備を進め、同時に会員や一般市民への支援・広報を行う。公共的機関より性能検証、コミショニング過程に関する調査・研究業務を受託し、人材育成と基準文書整備に活用する。						
	a)	海外調査・国際交流	2018/4～2019/3	BSCA 事務所他	1名	会員、市民、建築関係者、不特定	
		米国におけるCx技術・事業の調査ツアー	2018/10/13～10/22	シカゴ・ナッシュビル・ワシントン・ボストン	15名	会員、市民、建築関係者、不特定	
	b)	技術委員会活動	2018/4～2019/3	東京	5名	建築関係者	
	次世代のコミショニングを担う若手研究者・実務者による交流会	2018/9/28～9/29	新日本空調株式会社茅野研修所・技術開発研究所	10名	18名		
(4) 基準制定・検証事業	(4) 性能検証基準の制定及び性能検証事業				会員、市民、建築関係者、不特定	49,297,777	35,266,112
	マニュアル類の更なる向上と普及を目指して、会員や一般市民等のための性能検証を実施する。						
	a)	建築設備性能検証マニュアル校正WG	2018/4～2019/3	東京	16名		
	b)	Cx費用ガイドライン検討WG	2017/12～2019/5	東京	12名		
	c)	京都駅ビル熱源・空調設備更新工事 Cx業務（機能性能確認・適正化フェーズⅡ）	2017/12～2019/12	BSCA事務所、京都駅ビル他	14名		
	d)	京都駅ビル二次側空調設備改修工事 Cx業務（基本設計フェーズ）	2018/6～2019/7	BSCA事務所、京都駅ビル他	6名		
	e)	京都駅ビル電気設備更新工事 Cx業務（調査フェーズ）	2018/12～2019/8	BSCA事務所、京都駅ビル他	6名		
	f)	東急電鉄・田園都市線三軒茶屋駅及び駒沢大学駅空調設備更新工事 Cx業務（調査及び基本設計フェーズ）	2018/8～2019/8	BSCA事務所、東急電鉄他	6名		
	g)	(仮称)TNKイノベーションセンター新築工事 Cx業務	2017/10～2019/1	BSCA事務所、TKNイノベーションセンター	5名		
	h)	事業委員会活動	2018/4～2019/3	BSCA事務所他	12名		

事業名	事業内容	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	収支額（単位：円）	
						収入	支出
(5) 共催・協賛事業	(5) 共催・協賛事業				会員、市民、建築関係者、不特定	0	0
	他団体への共催、後援、協賛事業によりコミッショニングの普及を目指す。						
	a)	日本建築学会 第14回建築設備シンポジウム後援	2018/10/23	建築会館ホール	—	297名	
	b)	空気調和・衛生工学会九州支部新長崎県庁庁舎への施設見学会共催	2018/11/2	長崎県庁舎	—	24名	
	c)	空気調和・衛生工学会近畿支部京都駅ビル熱源・空調更新工事コミッショニングプロジェクト見学会協賛	2018/11/29	メルパルク京都、京都駅ビル	—	59名	

3. 事業の概要

(1) 人材育成事業

a) CxPE（性能検証技術者）資格研修

CxPE 資格研修会を 2018 年 12 月 14 日～15 日に大阪にて開催し、受講者 7 名を修了試験合格と判定した。今年に関東 3 名、関西 2 名、四国 1 名、九州 1 名、沖縄 1 名と、遠方からの参加者も多数見受けられた。新規受講者のうち 7 名が登録をして CxPE 登録者は総計 99 名となった。

b) CxTE（性能検証専門技術者）講習（九州、北海道）

2018 年度で 7 回目となる講習会を、11 月に福岡（受講者 26 名）、札幌（受講者：16 名）、の講習会を実施した。合計 42 名に CxTE 講習の修了証を授与し、2018 年度に新たに CxTE 登録された会員は 4 名、累計で 61 名となった。

c) 認証検討委員会及び資格判定委員会活動

1) 認証検討委員会

- ・ 本年度、認証検討委員会における検討事案が無かった為、活動は行っていない。

2) 資格判定委員会

- ・ CxPE 資格研修会で使用する試験問題を決定し、資料の作成を行なった。
- ・ 研修会終了後は、CxPE 資格研修小委員会を開催し、採点を行なった。
- ・ CxPE については、2019 年 3 月に外部委員を交えた資格判定委員会を開催し、2018 年度の CxPE の可否判定を行った。

d) Cx 事例シンポジウム(東京,関西)

米国におけるコミッショニング事情の調査報告

2018 年秋に実施した米国 Cx 調査ツアーを題材に、2 月 6 日に関西（大阪大学中之島センター・佐治敬三メモリアルホール）、2 月 13 日に東京（東京大学工学部 1 号館 15 号講義室）において Cx シンポジウムを開催し、関西 67 名、東京 95 名と多数の参加者を得た。

シンポジウムでは、調査ツアーの趣旨と概要、米国における ZEB・ZEH の Cx 概要、日米での Cx の違い、利用されている Cx ツール、米国の Cx 事業者のビジネスの現状、現在検討が進められている Cx の ISO 化について、ツアーに参加した 11 名の講師より説明した。質疑応答では、今後のわが国における Cx 発展のあり方や課題などについて、参加者と活発なディスカッションを行った。

e) Cx 研究会（中部）

中部大学名古屋キャンパスにて 2018 年 8 月 10 日に「個別分散パッケージシステムの性能検証」と題し討論を行った。討論する題材として、機種選定の違いによる室内環境と省エネルギーの変化を評価した事例、エネルギー消費量と負荷率の分析を評価した事例、実負荷に見合う適正化を図った事例の 3 事例の紹介や、集中管理コントローラから得られる情報により建物側の運用時の負荷の実態を分析した事例紹介を紹介した。これらを題材として過去の実施同様に少人数の会議形式で行い、活発な議論を行った。

f) Cx マニュアル (CD) の頒布

新マニュアルは改訂後合計で 88 部、今年度は 13 部頒布した。

g) 総会付帯行事を兼ねた講演会 (東京)

中央大学駿河台記念館において、通常総会を開催するとともに講演会を実施した(参加者 45 名)。講演では、経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー課 課長補佐 田中宏和氏に「業務部門の省エネ政策と ZEB の普及促進」、早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 建築学科 教授 田辺新一氏に「動きだしたゼロ・エネルギービル」と題してご講演頂いた。なお講演資料は、会員のみでの公開とし、ホームページに掲載した。

h) 技術交流会

総会に引き続き、賛助会員会を兼ねた「技術交流会」を開催した(参加者 60 名)。来賓の一般社団法人公共建築協会 時田繁常務理事の乾杯や新任理事の挨拶の他、新 CxPE の代表者からは抱負表明等も行われ、終始和やかに会員間で情報交流や交歓が図られた。

i) Cx に関心を持つ者の集い

空気調和・衛生工学会大会の二日目(9月13日)夕方、恒例の「コミッションングに関心を持つ者の集い」を名古屋市「旬蔵(しゅんぞう)名駅店」にて開催した。17回を迎える今回、42名の参加者の下、Cxの昨今や将来が語られ参加者間の情報交換が図られた。

(2) 性能検証普及事業

a) ホームページの整備充実

2018年度も継続して当協会のホームページを制作している会社と年間保守契約を結び、年2回の画面修正、Cx事例ページの追加やセキュリティー対応などを依頼しホームページの改善と維持に努めた。この他、以下2つの改善を行った。

1) コミッシュョニングレターのWeb化

コミッシュョニングレターは、従来はPDFファイル化したレターをホームページからダウンロードする形で会員に提供していた。ダウンロードの際、読者(会員)は都度IDとパスワードを入れなければならないと煩わしかった。これを改善するため、ホームページにWeb化された記事を直接掲載する方法に変更した。次年度は、今回新たに構築したWeb化手法を主としてCxレターの配信を行う予定である。なお、従来の手法(PDFファイル)による配信は上期で終了し、下期からWeb化配信に完全移行する予定である。

2) CxPE資格者の情報をWeb化

従来は、CxPE資格者情報(所属、業務経歴、Cx経歴等)を記載したPDFファイルをホームページ業者に依頼してアップしてもらっていたため、新規登録・更新に時間がかかっていた。これをWeb上で登録できるような仕組みを新たに構築し、新規登録、情報修正等の迅速な対応ができるよう検討した。

b) コミッシュョニングレターの発行

コミッシュョニングレターは、主に会員に対する積極的な情報提供を目的として月1回の発行を継続した。昨年度も、毎月1日に計12回の発行を行い、Cxに関わる有益な情報等を会員に提供した。BSCA主催の研修会等に関しては、会告を掲載するとともに、以下の報告を行った。建物エネルギーシミュレーションツールの評価方法、Cx事例紹介シンポジウム、オーナーが語るCxの有用性と課題、コミッシュョニング研究会(中部)、次世代のコミッシュョニングを担う若手研究者・実務者による交流会、CxTE講習会、事業として進めてきたプロジェクトの受賞記事などを報告した。また、忘れ得ぬ人々(3)～(7)などの自由投稿記事を掲載した。

c) 空気調和・衛生工学会大会ブース出展

2018年9月の空気調和・衛生工学会名古屋大会における展示会でブースを設け、例年どおり、当協会の概要・活動の紹介を最新情報に更新したタペストリーを展示した。このタペストリーは、CxTE講習会などでも掲示に活用した。

d) 京都大学サステイナブルキャンパス構築シンポジウム ポスター掲示

2019年2月の京都大学環境安全保健機構、京都大学施設部主催の京都大学サステイナブルキャンパス構築シンポジウム2019「次世代社会に向けた環境調和型キャンパスの構築」においてポスターを展示した。

e) 「発注者の声」ホームページ掲載

京都駅ビル熱源更新プロジェクトでCxを採用した京都駅ビル開発の方と公共建築物において日本で初めてCxを採用した長崎県庁の方に「発注者の声」を投稿してもらい、ホームページに掲載をした。

f) 企画・運営委員会活動

委員会を年 4 回開催し、下記活動の実施内容について審議し運営を行った。

1) 広報活動

1-1) HP 広報WG

- ・ 協会のホームページ作成会社との年間保守契約を継続し、ホームページの維持管理を行った。
- ・ コミッシュォングレターの Web 上の情報とリンクした配信が出来る仕組みを構築した。
- ・ CxPE 資格者情報登録の Web システムを構築した。

1-2) レター広報WG

- ・ コミッシュォングレターは、主に会員に対する積極的な情報提供を目的として月 1 回の発行を継続した。

2) 会員獲得活動

- ・ 個人会員数の増強に努めた。23 名の新規入会者があり会員数は 222 名となった。
- ・ 各種団体に Cx の意義を理解して貰うよう賛助会員の獲得に努め、積極的に広報活動を展開した。賛助会員については森村設計の入会があった。

3) フェローの活動

- ・ BSCA として活動をされる方の肩書を「フェロー」とすることを企画し、理事会にて 3 名を承認した。

4) コミッシュォング事業者 (CxF) 登録制度の運用

- ・ CxF の登録制度を継続して運用した。

5) 講習会・セミナー事業

- ・ 前掲、(1) 人材育成事業、d)Cx 事例シンポジウム、e)Cx 研究会、(5) 共催・協賛事業を参照。

(3) 調査研究・技術支援事業

a) 海外調査・国際交流

我が国より約10年早くCxに取り組み始めたCxの先進国である米国におけるCx技術・事業の調査ツアーを企画し、賛助会員などから15名の参加を得た。調査では、Cxの事業者や研究機関を訪ねて米国のCx事情をヒアリングした。また、同時期に開催された全米コミッショニング会議にも出席し、当協会で実施した先導的Cx事例を発表すると共に、会議で発表されたCxに関する情報を収集し、かつ参加者との交流を行った。これらの成果は、前述の(1)d「米国におけるコミッショニング事情の調査報告」シンポジウムで発表した。

b) 技術委員会

次世代のコミッショニングを担う若手研究者や実務者が交流する場を設け、Cxツールの開発や普及に繋がる活動を行った。活動内容は、新日本空調株式会社 技術開発研究所（長野県茅野市）の見学の後、同社研修所にてコミッショニング先進事例等に関する討論を実施した。参加者は施工者（ゼネコン・サブコン）、設計者（設備設計・建築環境設計）、研究者（建築設備、住宅設備、光環境、温冷感、気流解析、パッシブデザイン）など、18名の若手の研究者・技術者である。討論会では、それぞれの立場からCxへの期待や、現在の活動状況、自身の関わり方について活発な討論を行った。交流会では、若手技術者へのCxの普及と親交を深めた。

(4) 基準制定・検証事業

官民共に Cx を事業として発注する事例が増えた。こうした動きがあるので、Cx 費用のガイドラインを策定する WG を 14 期に立ち上げ、ガイドラインとして Cx 標準費用の算定基準の作成を行った（後述 b）参照）。また、Cx 事業は、既存建物の熱源・空調システムの大改修工事を 2 件、電気設備更新工事を 1 件、既存ビル空調システムの省エネルギー改修を 1 件、ならびに新築物件の事業を 1 件の計 5 件を先導的な Cx 事業として受託し、これらの実践を通して得られる課題を抽出すると共に、得られたノウハウを蓄積し公開し、Cx を通して社会貢献と社会還元を図ることを目指した。2019 年 1 月には先導的 Cx プロジェクトとして受託し推進してきた京都駅ビル熱源・空調設備改修工事の Cx プロジェクトにおいて、省エネルギーセンター「平成 30 年度省エネ大賞（省エネ事例部門支援・サービス分野）の経済産業大臣賞」、空気調和・衛生工学会学会「第 7 回特別賞リニューアル賞」、建築設備技術者協会「第 7 回カーボンニュートラル賞」を受賞するに至った。

a) 建築設備性能検証マニュアル校正 WG

校正箇所抽出を行った。

b) Cx 費用ガイドライン検討 WG

経済産業省の補助事業採択の加点要素への組み込みや長崎県による機能性能試験業務発注などがあったため、Cx に関心を持つ建物オーナーが増加している。一方では、Cx 業務の費用が未知なため発注しにくいという状況がある。そこで、発注者が Cx 業務の予算化をする上で参考となる当協会としての Cx 費用ガイドラインを作成するための WG を立ち上げ、15 期には、Cx の標準費用について CxF で登録されている企業の会員と BSCA 側のメンバーで打合せを行い、ガイドラインとして、①Cx 標準費用の算定基準、②パンフレット原案、及び、③延床面積 50,000 m²の本社ビルを対象とした試算例の作成を行った。この原案は 2019 年 6 月にホームページ上で公表して会員からのコメントを収集し、それをもとに最終案を作成して 9 月に公表する計画である。

c) 京都駅ビル熱源・空調設備更新工事 Cx 業務（機能性能確認・適正化フェーズⅡ）

- ・ 委託機関：京都駅ビル開発(株)
- ・ 事業実施：2017年12月～2019年12月
- ・ 担当者：吉田治典（CA）、松下直幹（幹事）、柳原隆司、赤司泰義、下田吉之、杉浦修史、岡敦郎、山本雄二、矢部克明、中森彰、西山満

「機能性能確認・適正化フェーズ」に引き続き、2017年12月から2年間の期間で「機能性能確認・適正化フェーズⅡ」を行った。本フェーズは、機能性能確認・適正化フェーズⅠで残された課題を解決するとともに、より高度に適正化し、OPRの目標値を超える削減を目指した活動を行った。その結果2019年3月時点で、2年目の同時期よりも削減率が1.5%向上した。また、本フェーズで新築Cxは終了するが、その後も運転・管理者が継続して適正な設備運用・管理が行えるように、引継ぎ文書等の整備も本フェーズの業務範囲として進めている。

d) 京都駅ビル二次側空調設備改修工事 Cx 業務（基本設計フェーズ）

- ・ 委託機関：京都駅ビル開発(株)
- ・ 事業実施：2018年6月～2019年7月
- ・ 担当者：吉田治典（CA）、松下直幹（幹事）、柳原隆司、岡敦郎、山本雄二、矢部克明、西山満

2010年から開始され現在も機能性能確認・適正化フェーズⅡとして継続している京都駅ビルの熱源設備改修工事のCxプロジェクトでは、目標としていた改修対象設備の一次エネルギー消費量2009年比60%削減をほぼ達成してした。これに続き、二次側空調設備更新工事（2022年竣工予定）の基本設計フェーズを受託した。二次側空調設備改修では、熱源改修工事の設計に織り込み済みの、ホテル・文化系統に残された蒸気システムの温水化、冷水温度差を $\Delta T=6^{\circ}\text{C}$ から $\Delta T=10^{\circ}\text{C}$ とする大温度差空調システムの導入、様々な課題を抱えている全テナントの空調機の全面更新などを計画しており、一層の省エネを目指してコミッションングを進めている。

e) 京都駅ビル電気設備更新工事 Cx 業務（調査フェーズ）

- ・ 委託機関：京都駅ビル開発(株)
- ・ 事業実施：2018年12月～2019年8月
- ・ 担当者：吉田治典（CA）、糸賀良悦（幹事）、柳原隆司、藤岡茂、多山洋文、上野圭介

本プロジェクトは電気設備の更新を、既往の老朽設備の取り替えという通常の更新プロセスではなく、地下にある電気設備の水没を回避するための大々的な電気室の移転を行いたい、かつ既往の電気設備の電源構成や保守方法を根本的に見直したいという発注者の要件を整理し、Cx過程を適用したプロセスで更新するものである。本プロジェクトでは、24時間稼働する駅ビル改修工事の先導例としたいというオーナーの要求に応える業務であり、電気設備のCxとしてはおそらく日本で初めての事業であるため、本成果を広く社会に公表しフィードバックする予定である。

**f) 東急電鉄・田園都市線三軒茶屋駅及び駒沢大学駅空調設備更新工事 Cx 業務
(調査及び基本設計フェーズ)**

- ・ 委託機関：京都駅ビル開発(株)
- ・ 事業実施：2018年8月～2019年8月
- ・ 担当者：吉田治典 (CA)、松下直幹 (幹事)、柳原隆司、山本雄二、西山満、高草智

東急電鉄・地下駅施設の空調設備は、40年程以前の竣工以来、省エネの観点での適切な検討も運転状況を把握するデータの収集もなされてこなかった。今回、システムの抜本的な見直しをして改修設計・施工を行いたいという発注者の意向を受けて Cx プロセスを導入している。比較的小規模かつ単純な駅空調だが省エネ面・環境面に課題が多くあり、本 Cx を通じて、システムの改修設計・施工・運用において得られた知見を他駅にも水平展開しようとしている。

g) (仮称) TNK イノベーションセンター新築工事 Cx 業務

- ・ 委託機関：高砂熱学工業株式会社
- ・ 事業実施：2017年10月～2019年1月 (工期延長)
- ・ 担当者 赤司泰義 (CA)、岡敦郎 (幹事)、吉田治典、柳原隆司

ZEBの実現を目指した研究施設の新築工事の Cx 業務で、基本設計・実施設計が対象範囲である。完了までに7回の Cx 会議、7回の WG 会議を行って OPR の取り纏めを支援するとともに、設計レビューを行なった。基本設計のレビューは2018年3月、実施設計のレビューは、2018年11月に終了した。2019年1月にレビュー結果の最終確認及び Cx 報告書を提出して業務が完了した。

h) 事業委員会

- ・ 新規の先導的 Cx 事業対応のための事前打合せ、調査を実施した。

(5) 共催・協賛事業

a) 日本建築学会

第14回建築設備シンポジウム 【後援】

第1部「価値をたかめる環境建築」、第2部「環境建築がもたらす価値に関する研究」と題し、環境建築がひろげる価値創造に向けた設計・研究の両面からの幅広い議論を通じて、これからの環境建築のあり方について理解を深めるシンポジウムに対し後援を行った。

b) 空気調和・衛生工学会九州支部

新長崎県庁舎への施設見学会 【共催】

2017年11月に竣工した新長崎県庁舎は、設計段階からCxに取り組んだ日本で初めての官公庁建物であり、BSCA CxTE講習会の翌日に空気調和・衛生工学会九州支部の主催で新長崎県庁舎の見学会を実施した。

c) 空気調和・衛生工学会近畿支部

京都駅ビル熱源・空調更新工事コミッショニングプロジェクト 見学会 【協賛】

先導的Cx事例として取り組んできた京都駅ビルについて空気調和・衛生工学会近畿支部の見学会に協賛した。Cxプロジェクトの概要・成果などの説明を建築主、設計者、当協会メンバーから報告がなされ、その後Cxで特に力を入れて取り組んだ対象設備の見学が実施された。参加者は約60名であった。

(6) 理事会

- ・ 理事会を10回(うち電磁的方法による開催6回)開催し、総会付議事項、新規プロジェクトの受注についての手順、プロジェクト契約等を審議し決定した。

4. 会計収支決算

様式例・記載例（法第28条第1項「前事業年度の計算書類（活動計算書）」）

2018年度 決算報告

建築設備コミッションング協会

2018年4月1日から2019年3月31日まで

（単位：円）

科目	2018年度決算		2018年度予算		増減額	備考欄
	特定非営利活動	その他事業	特定非営利活動事業	その他の事業		
I 経常収益						
1 受取会費						
入会金収入	115,000	0	100,000	0	15,000	
正会員受取会費	2,150,000	0	2,150,000	0	0	
賛助会員受取会費	6,000,000	0	6,000,000	0	0	
計	8,265,000	0	8,250,000	0	15,000	
2 受取寄附金						
受取寄附金	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	
3 受取助成金等						
受取民間助成金	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	
4 事業収益						
1. 人材育成事業						
CxPE研修会	560,000	0	640,000	0	-80,000	
CxTE講習会(北海道)	224,000	0	540,000	0	-316,000	
CxTE講習会(九州)	252,000	0	352,000	0	-100,000	
Cxシンポジウム(東京)	436,000	0	380,000	0	56,000	
Cxシンポジウム(関西)	335,000	0	390,000	0	-55,000	
Cx研究会(中部)	9,000	0	10,000	0	-1,000	
マニュアルの頒布	254,880	0	200,000	0	54,880	
技術交流会	150,000	0	150,000	0	0	
Cx 集い	205,000	0	200,000	0	5,000	
小計	2,425,880	0	2,862,000	0	-436,120	
2. 普及事業	0	0	0	0	0	
小計	0	0	0	0	0	
3. 研究・支援事業						
技術委員会	65,000	0	0	0	65,000	
小計	65,000	0	0	0	65,000	
4. 基準制定事業						
京都駅ビルCx						
熱源機性能Ⅱ	18,312,437	0	16,925,000	0	1,387,437	
空調二次側基本計画	10,747,080	0	15,000,000	0	-4,252,920	
電気設備調査	3,900,420	0	0	0	3,900,420	
電気設備調査(百貨店)	4,911,840	0	0	0	4,911,840	
沖縄科学技術大学院大学Cx	0	0	12,000,000	0	-12,000,000	
TNKテクノロジーセンターCx	6,426,000	0	10,617,480	0	-4,191,480	
東急電鉄Cx	5,000,000	0	0	0	5,000,000	
小計	49,297,777	0	54,542,480	0	-5,244,703	
5. その他事業	0	0	0	300,000	-300,000	
小計	0	0	0	300,000	-300,000	
計	51,788,657	0	57,404,480	300,000	-5,915,823	
5 その他収益						
受取利息	287	0	5,000	0	-4,713	
雑収益	0	0	10,000	0	-10,000	
小計	287	0	15,000	0	-14,713	
計	287	0	15,000	0	-14,713	
経常収益計	60,053,944		65,669,480	300,000	-5,915,536	

重要な会計重要な方針

(1) 固定資産の減価償却方法

有形固定資産の減価償却方法：定率法によっております。

無形固定資産の減価償却方法：定額法によっております。

(2) 消費税等の処理方法

税込経理によっております。

科目	2018年度決算		2018年度予算			備考欄
	特定非営利活動	その他事業	特定非営利活動事業	その他の事業	増減額	
II 経常費用						
1 事業費						
1. 人材育成事業						
CxPE研修会	232,194	0	563,000	0	-330,806	
CxTE講習会(北海道)	323,269	0	390,000	0	-66,731	
CxTE講習会(九州)	116,391	0	525,000	0	-408,609	
Cxシンポジウム(東京)	367,848	0	295,000	0	72,848	
Cxシンポジウム(関西)	543,332	0	330,000	0	213,332	
Cx研究会(中部)	1,792	0	4,000	0	-2,208	
マニュアルの頒布	40,858	0	30,000	0	10,858	
総会付帯講演会	58,992	0	60,000	0	-1,008	
技術交流会	390,452	0	230,000	0	160,452	
Cx 集い	201,000	0	200,000	0	1,000	
資格判定委員会	185,028	0	200,000	0	-14,972	
小計	2,461,156	0	2,827,000	0	-365,844	
2. 普及事業						
ホームページ	906,120	0	1,320,000	0	-413,880	
コミッションングレターの発行	125,244	0	200,000	0	-74,756	
空気調和・衛生工学会大会ブース出展	138,478	0	180,000	0	-41,522	
CxP登録制度小委員会	0	0	100,000	0	-100,000	
企画・運営委員会及び広報担当	201,028	0	360,000	0	-158,972	
小計	1,370,870	0	2,160,000	0	-789,130	
3. 研究・支援事業						
海外調査	1,602,784	0	1,500,000	0	102,784	
技術委員会	167,060	0	400,000	0	-232,940	
小計	1,769,844	0	1,900,000	0	-130,156	
4. 基準制定事業						
京都駅ビルCx						
熱源機能性能II	14,535,350	0	14,386,250	0	149,100	
空調二次側基本計画	7,858,645	0	12,750,000	0	-4,891,355	
電気設備調査	2,146,037	0	0	0	2,146,037	
電気設備調査(百貨店)	3,798,540	0	0	0	3,798,540	
沖縄科学技術大学院大学Cx	0	0	10,200,000	0	-10,200,000	
TNKテクノロジーセンターCx	2,076,849	0	7,080,000	0	-5,003,151	
東急電鉄Cx	4,371,885	0	0	0	4,371,885	
事業委員会	0	0	50,000	0	-50,000	
Cx費用ガイドライン検討WG	478,806	0	600,000	0	-121,194	
マニュアル校正	0	0	800,000	0	-800,000	
小計	35,266,112	0	45,866,250	0	-10,600,138	
5. その他事業	0	0	100,000	150,000	-250,000	
小計	0	0	100,000	150,000	-250,000	
事業費計	40,867,982	0	52,853,250	150,000	-12,135,268	

科目	2018年度決算		2018年度予算			備考欄
	特定非営利活動	その他事業	特定非営利活動事業	その他の事業	増減額	
2 管理費						
旅費交通費	467,600	0	240,000	0	227,600	
通信運搬費	194,411	0	182,000	0	12,411	
消耗品費	241,487	0	260,000	0	-18,513	
什器備品	0	0	200,000	0	-200,000	
会議費	231,480	0	254,500	0	-23,020	
印刷製本費	86,918	0	100,000	0	-13,082	
租税公課	342,300	0	440,000	0	-97,700	
支払手数料	63,888	0	70,000	0	-6,112	
雑給	5,000	0	5,000	0	0	
諸会費	108,636	0	200,000	0	-91,364	
家賃	395,280	0	400,000	0	-4,720	
修繕費	0	0	0	0	0	
予備費	0	0	0	0	0	
特許申請費	446,000	0	0	0	446,000	
支払報酬	430,300	0	420,000	0	10,300	
事務外注費	3,888,000	0	3,888,000	0	0	
事務管理費	130,000	0	300,000	0	-170,000	
減価償却費	329,261	0	330,000	0	-739	
雑費	16,200	0	0	0	16,200	
管理費計	7,376,761	0	7,289,500	0	87,261	
経常費用計	48,244,743	0	60,142,750	150,000	-12,048,007	
I, II 当期経常増減額	11,809,201	0	5,526,730	150,000	6,132,471	
III 経常外収益						
1 固定資産売却益	0	0	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	0	0	
IV 経常外費用						
1 過年度損益修正損	0	0	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	0	0	
III, IV 当期経常外増減額	0	0	0	0	0	
税引前当期正味財産増減額	11,809,201		5,526,730		6,282,471	
法人税、住民税及び事業税	70,000		71,000		-1,000	
当期正味財産増減額	11,739,201		5,605,730		6,133,471	
前期繰越正味財産額	45,189,432		45,189,432		0	
次期繰越正味財産額	56,928,633		50,795,162		6,133,471	

2018年度 貸借対照表

建築設備コミッションング協会

2019年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額		備考
I 資産の部			
1 流動資産			
現金及び預金	24,384,711		
売掛金／未収金	32,986,505		
棚卸資産	0		
貯蔵品	0		
前払費用	157,680		
仮払金	0		
流動資産合計		57,528,896	
2 固定資産			
(1) 有形固定資産			
什器備品	200,880		
減価償却累計額	-200,879		
有形固定資産計	1		
(2) 無形固定資産			
ソフトウェア等	304,152		
無形固定資産計	304,152		
(3) 投資その他の資産			
敷金	0		
保証金	180,000		
投資その他の資産計	180,000		
固定資産合計		484,153	
資産合計			58,013,049
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	401,280		
前受会費	5,000		
預り金	678,136		
仮受金	0		
流動負債合計		1,084,416	
2 固定負債			
	0		
固定負債合計		0	
負債合計			1,084,416
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		45,189,432	
税引後当期正味財産増減額		11,739,201	
正味財産合計			56,928,633
負債及び正味財産合計			58,013,049

2018年度 財産目録

建築設備コミッショニング協会

2019年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額		備 考
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手元現金	0		
三菱UFJ銀行普通預金	1,683		
三菱UFJ銀行普通預金	5,182,156		
ゆうちょ銀行普通預金	893,506		
三井住友銀行	3,571,841		
池田泉州銀行	14,735,525		
現預金計	24,384,711		
未収金			
売掛金/未収金	32,986,505		
貯蔵品	0		
棚卸資産			
未収金計	32,986,505		
前払費用	157,680		
前払費用計	157,680		
仮払金	0		
仮払金計	0		
流動資産合計		57,528,896	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
什器備品	1		
有形固定資産計	1		PC 1台
(2) 無形固定資産			
ソフトウェアなど	304,152		
無形固定資産計	304,152		ホームページ
(3) 投資その他の資産			
敷金	0		
保証金	180,000		
投資その他の資産計	180,000		ATC保証金
固定資産合計		484,153	
資産合計			58,013,049
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	401,280		
前受会費	5,000		
預り金			
源泉所得税預り金	678,136		
仮受金	0		
流動負債合計		1,084,416	
2. 固定負債			
	0		
固定負債合計		0	
負債合計			1,084,416
正味財産			56,928,633

5. 監査報告

2018年度の特定非営利活動法人 建築設備コミッショニング協会の事業報告、活動計算書及び財産目録等について、関係書類と共にその内容を監査した結果、法令及び定款に照らして、適正であることを認めます。

2019年4月16日

監 事

高草 智

高橋 直樹

第2号議案「第16期事業計画(案)及び 予算(案)に関する事項」

2019年度事業計画(案) (2019年4月1日から2020年3月31日まで)

1. 事業実施の方針

人材育成事業として毎年開催している性能検証技術者(CxPE)の資格研修の開催は、当協会が発行する「建築設備コミッシュンングマニュアル」の改訂や試験制度の再整備のため本年度は見送ることとした。関西や東京地区以外へのコミッシュンングの展開を目指して、性能検証専門技術者(CxTE)の講習は、一昨年に引き続き、両地区以外の東北(仙台)、中部(名古屋)、中国(岡山)で開催することを計画している。人材育成のためのシンポジウムとしては、本年9月に関西で国際シンポジウム(京都)「ZEB時代の建築環境性能達成プロセスとは～コミッシュンングを軸として～」を開催する。このシンポジウムにはコミッシュンングのISO化を見据えて、米国、中国、カナダ、日本から講師を招きコミッシュンングとZEB化について討議する。また東京と中部では「Cx事例シンポジウム」の開催を検討する。建築設備コミッシュンングマニュアルは齟齬や誤記がみられるため部分改訂する。

性能検証普及事業として、本年からホームページを活用したWeb上のレターに移行し会員外にも公開する。本年上期は今までのレター配信とWeb版とを並行して作成するが、下期にはWeb版に集約する。例年通り空気調和・衛生工学会大会の展示ブースへの出展を行い、当協会会員や関連学協会会員・一般市民を対象としたコミッシュンングプロセスおよびコミッシュンング技術の普及広報活動を実施する。昨年に引き続き、民間会社・官庁・大学などのビルオーナー、ならびに設計者団体、施工者団体などと懇談してコミッシュンングの意義を説明し、よりコミッシュンングが進展するための方策について意見交換する。

調査研究及び技術支援事業として、全米コミッシュンング協会大会(シカゴ)への参加者に対し資金援助をし、米国のコミッシュンング実情調査を実施する。また当協会が先導的Cx事業として実施し、空気調和衛生工学会のリニューアル賞を受賞した京都駅ビルの熱源改修プロジェクトの成果を2020年1月に開催される米国ASHRAE会議で発表する予定である。また、Cxの技術とその展開・整備については、例年通り、空気調和・衛生工学会のコミッシュンング委員会と連携する。

基準制定・検証事業として、Cx費用ガイドライン検討WGにより作成されたコミッシュンング事業フィーのガイドラインを公表し、事業が社会に広がるよう支援する。昨年同様、国交省からの要請を受け、機能性能試験をZEBなどの建築物省エネルギー性能表示制度(BELS)申請に組み込むための研究開発プロジェクトに委員を派遣し活動する。当協会が受託する先導プロジェクトに関しては、京都駅ビルの熱源・空調システム改修工事の機能性能向上・適正化フェーズⅡ、二次側空調システム改修のための基本設計フェーズ、電気設備の改修に関わる調査・基本設計フェーズ、東急電鉄から受託している地下駅空調設備改修の調査・基本設計フェーズのコミッシュンング業務を実施する。

当協会の業務IT化を更に進め、クラウドサーバを利用した委員会、シンポジウムなどの運営効率化を更に推進する。

2. 事業実施計画に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業（非営利活動）

事業名	事業内容		実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	収支額（単位：円）	
							収入	支出
(1) 人材育成事業	(1) セミナー開催等による性能検証に関する人材育成事業 シンポジウムや意見交換会・講演会を開催し、性能検証に関わる人材の育成と情報を提供するために下記を実施する。					会員、市民、建築関係者	4,211,000	4,940,000
	a)	CxPE 資格研修	—	開催予定なし	1名	1名		
	b)	CxTE 講習（東北）	2019/10 ～11	仙台	5名	30名		
		CxTE 講習（名古屋）	2019/10 ～11	名古屋	5名	30名		
		CxTE 講習（中国地方）	2019/10 ～2020/2	岡山	5名	30名		
	c)	認証検討委員会及び資格判定委員会活動	2019/4 ～2020/3	BSCA 事務所他	10名	—		
	d)	国際シンポジウム	2019/9	京都	10名	80名		
	e)	Cx 事例シンポジウム（東京・名古屋）	2019/11	東京	10名	80名		
			2019/8～12	名古屋	10名	15名		
	f)	Cx マニュアル（CD）の頒布	2018/4 ～2019/3	BSCA 事務所	3名	30名		
	g)	総会付帯講演会	2019/5/28	中央大学 駿河台記念館	10名	60名		
h)	技術交流会	2019/5/28	中央大学 駿河台記念館	10名	60名			
i)	Cx に関心を持つ者の集い	2019/9/19	北海道札幌市	5名	40名			
(2) 性能検証普及事業	(2) 会誌・ホームページ等による性能検証普及事業 定期的に会誌やホームページによる広報を行い、最新情報を提供するため下記を実施する。					会員、市民、建築関係者、不特定	0	2,140,000
	a)	ホームページの整備充実・情報発信	2019/4 ～2020/3	事務局	4名	約1000名		
	b)	空気調和・衛生工学会大会ブース出展	2019/9/18 ～9/20	北海道科学大学	5名	約100名		
	c)	企画・運営委員会活動	2019/4 ～2020/3	BSCA 事務所他	23名	—		
	d)	CxPE の活性化に向けた懇談会（ゼネコン、設計事務所など）	2019/4 ～2020/3	東京	3名	20名		

事業名	事業内容	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	収支額（単位：円）		
						収入	支出	
(3) 調査研究・技術支援事業	(3) 性能検証に関する調査研究及び技術支援事業				会員、市民、建築関係者、不特定	65,000	2,305,000	
	実施マニュアルやツール等の整備を進め、同時に会員や一般市民への支援・広報を行う。公共的機関より性能検証、コミショニング過程に関する調査・研究業務を受託し、人材育成と基準文書整備に活用する。							
	a)	海外調査・国際交流	2019/4～2020/3	BSCA 事務所他	1名			会員、市民、建築関係者、不特定
	b)	技術委員会活動	2019/4～2020/3	東京	5名			建築関係者
		次世代のコミショニングを担う若手研究者・実務者による交流会	2019/9～12	東京	10名			20名
(4) 基準制定・検証事業	(4) 性能検証基準の制定及び性能検証事業				会員、市民、建築関係者、不特定	26,670,000	23,399,115	
	マニュアル類の更なる向上と普及とを目指して、会員や一般市民等のための性能検証を実施する。							
	a)	建築設備性能検証マニュアル校正WG	2019/4～2020/3	東京	16名			
	b)	Cx 費用ガイドライン検討WG	2017/12～2019/5	東京	12名			
	c)	京都駅ビル熱源・空調設備更新工事 Cx 業務（機能性能確認・適正化フェーズⅡ）	2019/4～2019/12	BSCA 事務所、京都駅ビル他	14名			
	d)	京都駅ビル二次側空調設備改修工事 Cx 業務（基本設計フェーズ）	2019/4～2019/7	BSCA 事務所、京都駅ビル他	6名			
	e)	京都駅ビル電気設備更新工事 新築 Cx 業務（調査フェーズ）	2019/4～2019/8	BSCA 事務所、京都駅ビル他	6名			
	f)	東急電鉄・田園都市線三軒茶屋駅及び駒沢大学駅空調設備更新工事 Cx 業務（調査及び基本設計フェーズ）	2019/4～2019/8	BSCA 事務所、東急電鉄他	6名			
	g)	事業委員会活動	2019/4～2020/3	BSCA 事務所他	12名			
(5) 共催・協賛事業		2019/4～2020/3			会員、市民、建築関係者、不特定	0	100,000	
他団体への共催、後援、協賛事業によりコミショニングの普及を目指す。								

3. 活動計画の概要

非営利活動に関する活動計画の概要を述べる。

(1) 人材育成事業

a) CxPE（性能検証技術者）資格研修

2019 年度は研修会実施内容の懸案事項解決に専念することとし、資格研修会の実施は見送ることとする。

b) CxTE（性能検証専門技術者）講習（東北・名古屋・中国）

第 9 回目となる CxTE（性能検証専門技術者）講習会は、昨年に引き続き東京、大阪以外の地域(仙台、名古屋、岡山)での開催を検討する。

c) 認証検討委員会及び資格判定委員会活動

CxPE（性能検証技術者）資格研修会の実施を見送ることから、資格判定委員会についても実施しない。

d) 国際シンポジウム（京都）

2019 年 9 月に関西にて国際シンポジウム（京都）「ZEB 時代の建築環境性能達成プロセスとは～コミッションングを軸として～」を開催する。このシンポジウムには Cx の ISO 化を見据えて、米国、中国、カナダ、日本から講師を招き Cx と ZEB 化について討議するシンポジウムを開催する。

e) Cx 事例シンポジウム（東京・名古屋）

CxPE 資格者、CxTE 登録者が行った Cx 事例を紹介する Cx 事例紹介シンポジウムを東京・名古屋での開催を目指す。

f) Cx マニュアル（CD）の頒布

2016 年 11 月に発行した「建築設備コミッションングマニュアル」の販売を継続する。また原稿の表現・文言の修正や内容の矛盾点などの校正を実施する。

g) 総会付帯行事を兼ねた講演会（東京）

中央大学駿河台記念館における通常総会時に講演会を実施する。講演者と演題は、早稲田大学研究員教授 石井英雄氏が「DR・VPP の取り組みと課題」、日本設計 常務取締役 柳井崇氏が「環境建築・実現に向けての課題と設備技術者の役割」である。

h) 技術交流会（東京）

総会後に「技術交流会」を開催する。

i) Cx に関心を持つ者の集い

空気調和・衛生工学会大会に合わせ「コミッションングに関心を持つ者の集い」を開催し、会員の技術交流と会員増強の一助とする。

(2) 性能検証普及事業

a) ホームページの整備拡充・情報発信

- ・ 一般閲覧者に向けた情報発信を目指し、コンテンツの拡充を行う。
- ・ コミッショングレターの Web 化に伴う仕組みを強化し、より魅力ある情報発信を行う。
- ・ 一般閲覧者と会員との情報提供範囲を区分し、会員メリットが判りやすいしくみを構築する。
- ・ Cx 関連の情報・動向を取材することに注力し、コミッショングレターをタイムリーに配信を行う。

b) 空気調和・衛生工学会大会ブース出展

- ・ 空気調和・衛生工学会大会の開催期間中に協会の展示ブースを出展して広報活動を継続する。他主催のシンポジウムなどへの展示も検討し、広報活動の幅を広げる。

c) 企画・運営委員会活動

1) 会員特典の整備

- ・ 会員限定の情報提供（Cx 文書事例、Cx ツールなど）を検討する。

2) CxTE、PE 登録者の促進と CxF の登録の促進

- ・ Cx 事業の事例発表のシンポジウムなどで CxF 登録制度を広く紹介して登録を働きかけ賛助会員の増加を図る。
- ・ CxTE 及び PE の登録者が多くなってきている中、事業毎のチームに分かれビジネスへ活用方法を議論できる意見交換会を企画する実施する。

3) 各種団体へのコミッショニングの普及活動

- ・ CxPE（性能検証技術者）が社会に定着することを目指し、各種民間企業にて Cx 業務を実施する重要性を理解して貰うこと、CxPE 間の意見交換会を開いて課題を整理すること、などの活動を行う。
- ・ 公共部門や民間の建築オーナーに、省エネルギー・省 CO₂ 事業に Cx プロセスが有効であることを説明し、省エネルギー・省 CO₂ 事業の施策の策定や運用に対するアドバイスを積極的に行う。
- ・ Cx に関する調査・研究事業の受託を目指す。
- ・ 国による Cx の政策課題に関連する調査に協力する。
- ・ 講習会やセミナーを企画して、Cx の普及活動を実施する。
- ・ Cx 業務のビジネス展開を推進するため、経産省などと情報交換しながら業務のあり方・技術者の活用方法・技術者への報酬のあり方などについて、引き続き検討する。

(3) 調査研究及び技術支援事業

a) 海外調査・国際交流

- ・ Cxに関する国際会議への参加者や海外在住者による情報収集活動を支援する。
- ・ Cxに関する国際会議（例えば、全米コミショニング会議（NCBC）等）の開催案内や、それらの会議への参加者から報告をコミショニングレターに掲載し会員へ情報提供する。
- ・ 海外のCx組織（NIST、PECI、BCA、APCBC、AGCCなど）との連携活動を検討する。
- ・ 国際エネルギー機構（IEA）のCxに関する国際研究活動（Annex）との情報交換を図り、必要に応じて協力する。
- ・ 本年10月に開催される全米コミショニング協会（シカゴ）への資金援助をし、海外の情報把握と国際交流を図る。
- ・ 来年2月に開催されるASHRAEに参加しCx事例発表をし、情報把握、国際交流を図る。

b) 技術委員会活動

- ・ 空気調和・衛生工学会のコミショニング委員会における技術課題に対して、協調・連携してCxの普及展開に必要な技術課題に取り組み、その成果をリソースとして整備し公開していく。
- ・ 学生や若手研究者の見学会や勉強会（論文等レビューなど）を実施し、次世代の間でCxに関する情報共有を進める。

(4) 基準の制定及び検証事業

a) 建築設備性能検証マニュアル校正WG

- ・ 「建築設備コミショニングマニュアル」の校正を実施し、一般流通図書としての冊子販売を検討する。

b) Cx費用ガイドライン検討WG

- ・ パンフレット原案のデザインを確定後、Cx標準費用の算定基準、試算例を含めて、ガイドラインの原案を6月にホームページで公開をし、その後会員のコメントを取り纏め修正の後、9月には公開する予定である。

c,d,e,f) 各種先導的コミショニング事業の受託

- ・ 当協会特命による先導的Cx業務の受託、並びに調査研究委託業務を引き続き実施し、それらの活動成果やノウハウをCxに関わる人材育成や実務資料の集成に反映し知的資産とする。
- ・ 上記の先導的Cx受託業務にCxPEやCxTEの参画を募ることで人材育成支援を行い、当協会における先導的Cx事業の受託方法を整備する。

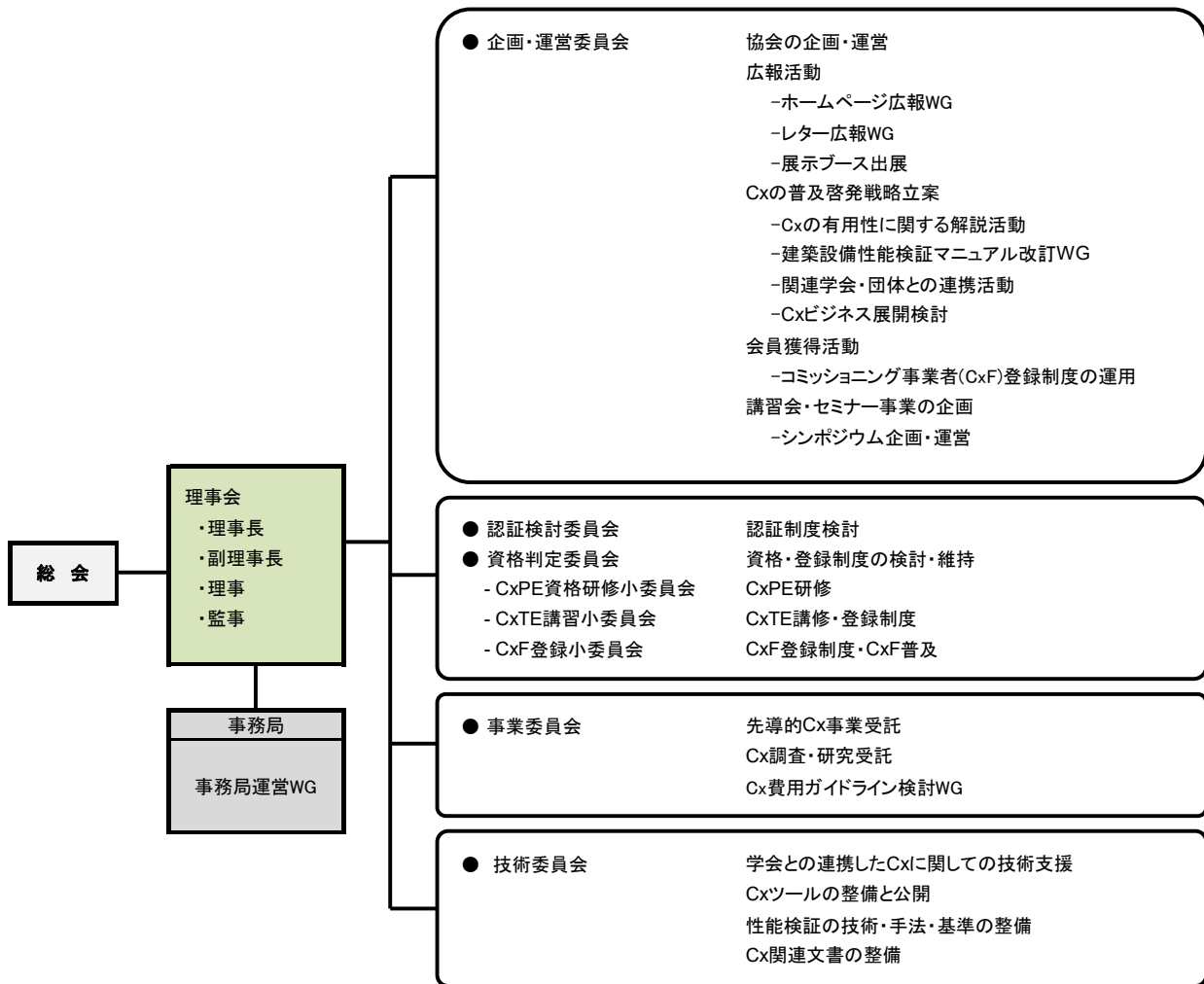
g) 事業委員会活動

- ・ 新たなCx関連業務の開発に努力する。

(5) 共催・協賛事業

- ・ 他団体への共催、後援、協賛事業によりCxの普及を目指す。

[組織図]



2019年度 活動予算

様式例・記載例（法第28条第1項「前事業年度の計算書類（活動計算書）」）

2019年度 活動予算書

建築設備コミッションング協会

2019年4月1日から2020年3月31日まで

(単位：円)

科目	2019年度 予算		2018年度 予算		増減額	備考欄
	特定非営利活動	その他事業	特定非営利活動事業	その他の事業		
I 経常収益						
1 受取会費						
入会金収入	100,000	0	100,000	0	0	
正会員受取会費	2,150,000	0	2,150,000	0	0	
賛助会員受取会費	6,000,000	0	6,000,000	0	0	
計	8,250,000	0	8,250,000	0	0	
2 受取寄附金						
受取寄附金	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	
3 受取助成金等						
受取民間助成金	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	
4 事業収益						
1. 人材育成事業						
CxPE研修	0	0	640,000	0	-640,000	
CxTE講習(仙台)	365,000	0	0	0	365,000	
CxTE講習(北海道)	0	0	540,000	0	-540,000	
CxTE講習(岡山)	377,000	0	0	0	377,000	
CxTE講習(九州)	0	0	352,000	0	-352,000	
CxTE講習(名古屋)	364,000	0	0	0	364,000	
Cxシンポジウム(東京)	380,000	0	380,000	0	0	
国際Cxシンポジウム(京都)	2,055,000	0	390,000	0	1,665,000	
Cxシンポジウム(中部)	120,000	0	10,000	0	110,000	
マニュアルの頒布	200,000	0	200,000	0	0	
技術交流会	150,000	0	150,000	0	0	
Cx 集い	200,000	0	200,000	0	0	
小計	4,211,000	0	2,862,000	0	1,349,000	
2. 普及事業						
小計	0	0	0	0	0	
3. 研究・支援事業						
技術委員会	65,000	0	0	0	65,000	
小計	65,000	0	0	0	65,000	
4. 基準制定事業						
京都駅ビルCx						
京都駅ビルCx事業(機能II)	11,283,000	0	16,925,000	0	-5,642,000	
京都駅ビルCx事業(二次側)	3,174,000	0	15,000,000	0	-11,826,000	
京都駅ビルCx事業(電気)	7,223,000	0	0	0	7,223,000	
沖縄科学技術大学院大学Cx	0	0	12,000,000	0	-12,000,000	
東急電鉄 空調Cx	4,990,000	0	0	0	4,990,000	
TNKテクノロジーセンター	0	0	10,617,480	0	-10,617,480	
小計	26,670,000	0	54,542,480	0	-27,872,480	
5. その他事業						
小計	0	0	0	300,000	-300,000	
計	30,946,000	0	57,404,480	300,000	-26,758,480	
5 その他収益						
受取利息	1,000	0	5,000	0	-4,000	
雑収益	10,000	0	10,000	0	0	
小計	11,000	0	15,000	0	-4,000	
経常収益計	39,207,000	0	65,669,480	300,000	-26,762,480	

科目	2019年度 予算		2018年度 予算		増減額	備考欄
	特定非営利活動	その他事業	特定非営利活動事業	その他の事業		
II 経常費用						
1 事業費						
1. 人材育成事業						
CxPE研修	1,200,000	0	563,000	0	637,000	
CxTE講習(仙台)	275,000	0	0	0	275,000	
CxTE講習(北海道)	0	0	390,000	0	-390,000	
CxTE講習(岡山)	295,000	0	0	0	295,000	
CxTE講習(九州)	0	0	525,000	0	-525,000	
CxTE講習(名古屋)	264,000	0	0	0	264,000	
Cxシンポジウム(東京)	295,000	0	295,000	0	0	
国際Cxシンポジウム(京都)	2,015,000	0	330,000	0	1,685,000	
Cxシンポジウム(中部)	76,000	0	4,000	0	72,000	
マニュアルの頒布	30,000	0	30,000	0	0	
総会付帯講演会	60,000	0	60,000	0	0	
技術交流会	230,000	0	230,000	0	0	
Cx 集い	200,000	0	200,000	0	0	
認証判定委員会	0	0	200,000	0	-200,000	
小計	4,940,000	0	2,827,000	0	2,113,000	
2. 普及事業					0	
ホームページ	1,300,000	0	1,320,000	0	-20,000	
コミッションングレターの発行	200,000	0	200,000	0	0	
空調調和・衛生工学会大会ブース出展	180,000	0	180,000	0	0	
CxF登録制度小委員会	100,000	0	100,000	0	0	
企画・運営委員会及び広報担当	360,000	0	360,000	0	0	
小計	2,140,000	0	2,160,000	0	-20,000	
3. 研究・支援事業					0	
海外調査	1,905,000	0	1,500,000	0	405,000	BCxA→ASHRAE
技術委員会	400,000	0	400,000	0	0	
小計	2,305,000	0	1,900,000	0	405,000	
4. 基準制定事業						
京都駅ビルCx						
京都駅ビルCx事業(機能II)	9,591,000	0	14,386,250	0	-4,795,250	
京都駅ビルCx事業(二次側)	2,698,000	0	12,750,000	0	-10,052,000	
京都駅ビルCx事業(電気)	6,140,000	0	0	0	6,140,000	
沖縄科学技術大学院大学Cx	0	0	10,200,000	0	-10,200,000	
東急電鉄 空調Cx	4,120,115	0	0	0	4,120,115	
TNKテクノロジーセンター	0	0	7,080,000	0	-7,080,000	
事業委員会	50,000	0	50,000	0	0	
Cx費用ガイドライン検討WG	1,000,000	0	600,000	0	400,000	
マニュアル校正	800,000	0	800,000	0	0	
小計	24,399,115	0	45,866,250	0	-21,467,135	
5. その他事業	100,000	0	100,000	150,000	0	
事業費計	33,884,115	0	52,853,250	150,000	-18,969,135	

科目	2019年度 予算		2018年度 予算		増減額	備考欄
	特定非営利活動	その他事業	特定非営利活動事業	その他の事業		
2 管理費						
旅費交通費	500,000	0	240,000	0	260,000	
通信運搬費	200,000	0	182,000	0	18,000	
消耗品費	260,000	0	260,000	0	0	
什器備品	200,000	0	200,000	0	0	
会議費	254,500	0	254,500	0	0	
印刷製本費	100,000	0	100,000	0	0	
租税公課	440,000	0	440,000	0	0	
支払手数料	70,000	0	70,000	0	0	
雑給	5,000	0	5,000	0	0	
諸会費	200,000	0	200,000	0	0	
家賃	400,000	0	400,000	0	0	
修繕費	0	0	0	0	0	
予備費	0	0	0	0	0	
支払報酬	420,000	0	420,000	0	0	
事務外注費	3,888,000	0	3,888,000	0	0	
事務管理費	300,000	0	300,000	0	0	
減価償却費	505,000	0	330,000	0	175,000	MATLAB
管理費計	7,742,500	0	7,289,500	0	453,000	
経常費用計	41,626,615	0	60,142,750	150,000	-18,516,135	
I, II 当期経常増減額	-2,419,615	0	5,526,730	150,000	-7,946,345	
III 経常外収益						
1 固定資産売却益	0	0	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	0	0	
IV 経常外費用						
1 過年度損益修正損	0	0	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	0	0	
III, IV 当期経常外増減額	0	0	0	0	0	
税引前当期正味財産増減額		-2,419,615				
法人税、住民税及び事業税		351,000				
当期正味財産増減額		-2,770,615				
前期繰越正味財産額		56,928,633				
次期繰越正味財産額		54,158,018				

BSGA 特定非営利活動法人
建築設備コミッショニング協会
Building Services Commissioning Association

〒559-0034

大阪市住之江区南港北 2-1-10ATC/ITM 棟 11 階
Tel: 06-6614-0880 Fax: 06-6616-7098

URL: <http://www.bsca.or.jp/>